

富山県農山村振興委員会 議事録
(多面機能支払交付金 富山県中間評価 (案))

日 時：令和3年11月4日(木) 14:00～15:45
場 所：富山県民会館704号室
出席委員：13名中13名出席
議 事：多面的機能支払交付金富山県中間評価(案)
主 旨：日本型直接払制度のうち、多面的機能支払交付金制度の中間報告(案)
の内容を審議するものである。

【主な意見】

(委員)「地域住民の防災・減災に対する意識の向上、体制の強化」について、共同活動ではなく、社会的な附帯効果として整理する方がよいのでは。

(事務局)近年、国では「流域治水」等の防災・減災対策を推進しており、本交付金での田んぼダムのほか、今後、ほ場整備事業等で排水工の整備も行うこととなるので、ハード的な項目で整理している。

(委員)「ワクワクとやまむらづくり大会」等で優良事例の取組みをモデル事例と位置付けてPRすべきと考える。

(委員)アンケート結果より、“(1)資源と環境”の項目では現状の評価、“(3)経済”の項目では、将来的な評価がなされていると感じた。“(3)経済”の評価を上げることが重要であり、それには本交付金以外の制度の充実が必要と考える。

(委員)活動組織アンケートの「多面的機能支払に取り組んでいなければ、活動の実施や参加者数が減る」等といった項目では、高い評価となっており、この点を交付金の効果として自信をもって強調すべき。

(委員)現在の担い手は、①リタイア後農業、②後継ぎ就農、③地区外からの新規就農に大きく分類されるが、今、現場で活躍しているのは、①の方々である。②や③に多く見られる若者の就農をさらに後押しするためにも、まずは、若者にメリットを感じる施策、例えば、草刈りや泥上げ等の地域活動に参加すると、加算措置を受けられるといった制度拡充が必要では。

(事務局)地域活動に参加する関係人口を増やすことは非常に重要である。

(委員) 若者が新たに農業に取り組む環境を作るために、従来の農業イメージを変える“スマート農業”を導入し、PRすべきと考える。

(委員) 中山間地域で本交付金を活用すると、草刈りや水路の泥上げといった基礎的な活動だけで交付金を使い切るため、農村コミュニティの強化等の社会的な活動にまで手が回らないのが実情である。

(委員) 地元で営農組合に携わっている。年々経営が厳しくなっている。同様のところが多くなってきており、今後、農業・農村を維持するには、より使いやすい支援策が必要である。

(委員) 従来、地域活動へのサポーターはボランティアとして参加されてきた。しかし、高齢化に伴う活動者の減少が深刻であり、将来的には、ボランティア以外（例えば：有償など）の参加者を集める時期に来ているのでは。そのような場合、本交付金では制度上、構成員への加入などの制約が多いことがネックとなる。

【今回の意見まとめ】

- 集落の過疎化や参加者の高齢化等の社会的な背景を踏まえつつ、地域活動が継続されるような施策を展開すること。
- ”d“評価とされた項目も含め、地域に対して、県内の優良事例をPRし、本交付金の活動効果を紹介すること。
- 本交付金の使途が現在よりも柔軟となるよう検討すること。